

グリーンな防除への転換支援マニュアルを作成

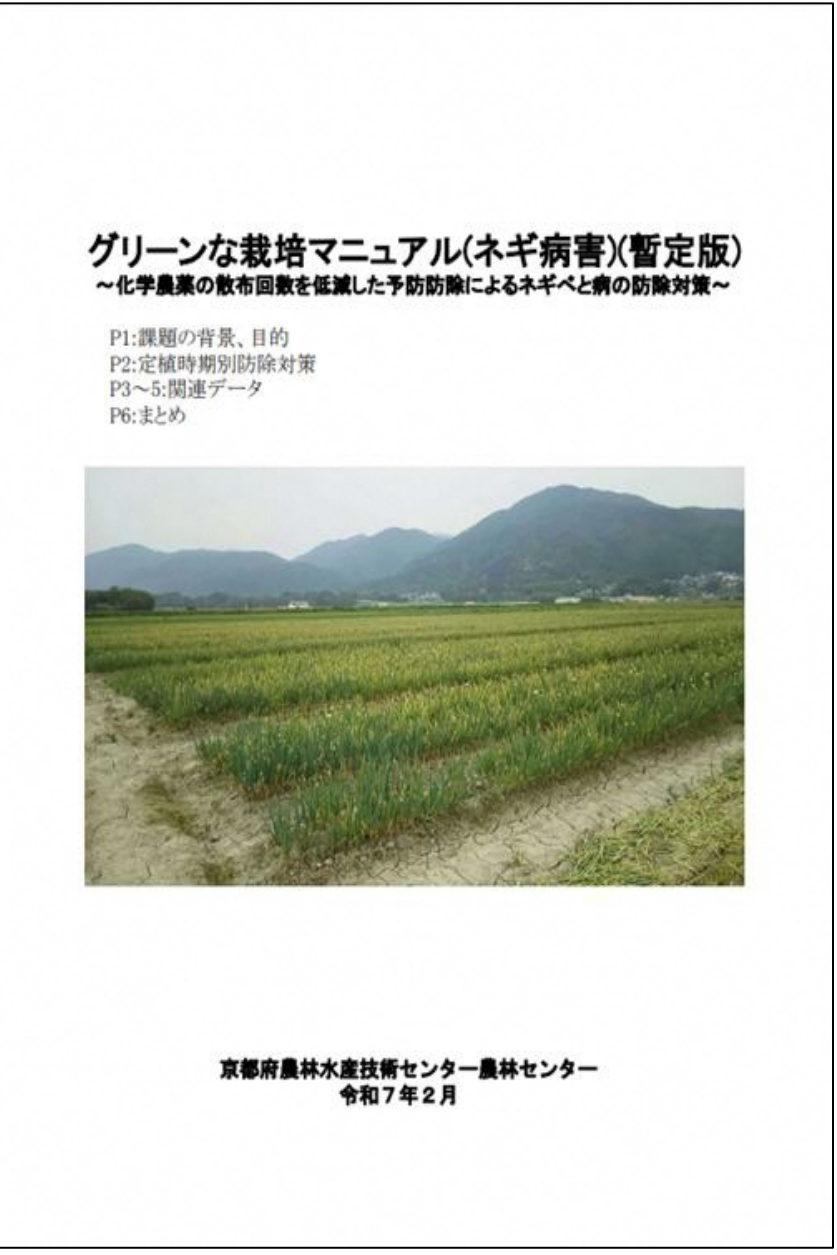
農林センター

問い合わせ先:農林センター環境部 0771-22-6494

主な成果

- 防除判断の難しい**ネギベと病**のスケジュール散布に頼らない**予防防除ポイント**
- 近年、新系統の発生や多発生によって**防除回数が現地で増加傾向にある害虫種**でも**散布回数を減らして、慣行と同等の効果**が得られる防除体系を検証

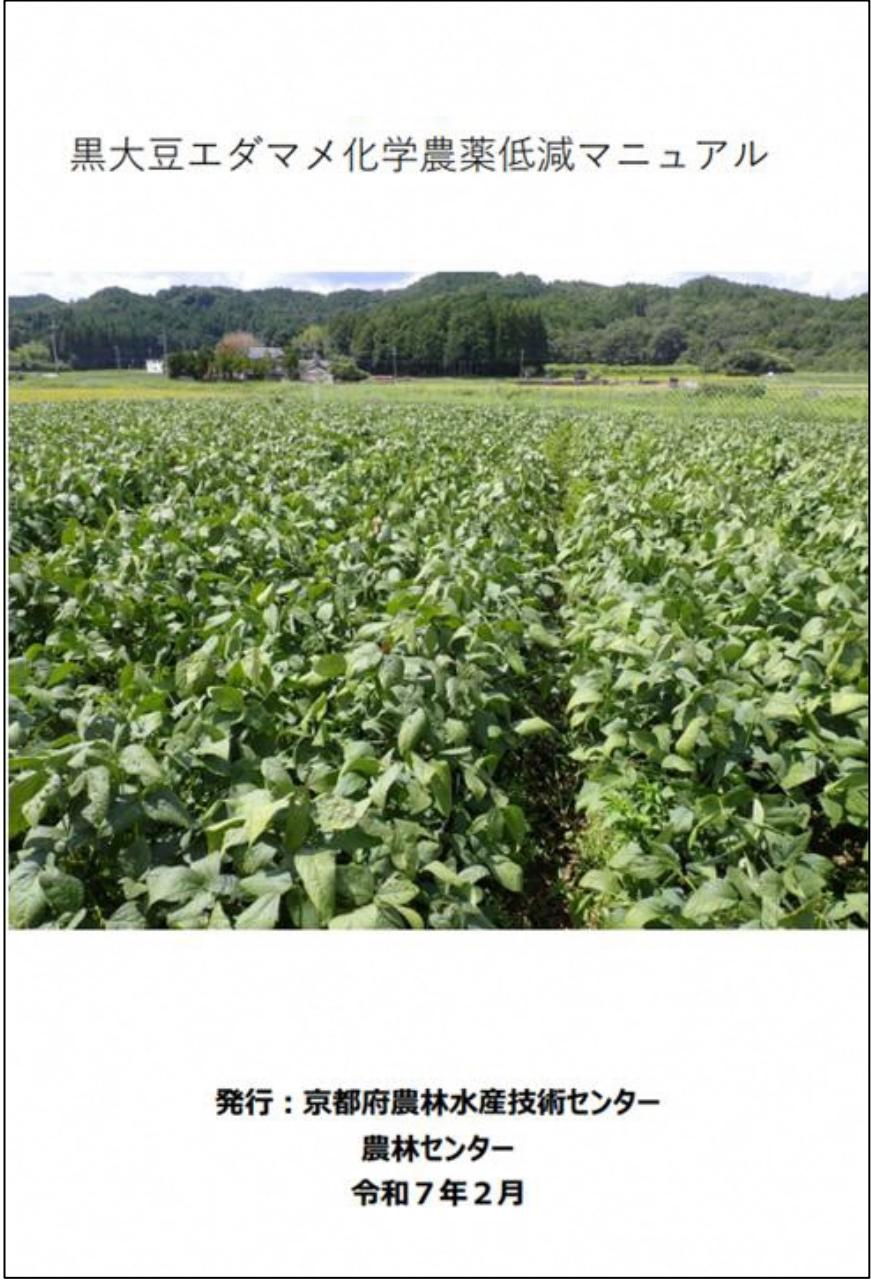
成果の内容



ネギベと病

- ・作型別防除ポイント1
⇒**秋季感染**を防ぎます
- ・作型別防除ポイント2
⇒**春季感染**を防ぎます
- ・作型別防除ポイント3
⇒**分生子拡散**を防ぎます

化学農薬の散布回数を低減
(慣行8回以上➡5～6回)



エダマメの ハスモンヨトウ、ハダニ

発生消長を確認

両害虫に効果の高い
薬剤で同時防除

化学農薬の散布回数を低減
(慣行15剤➡12剤)



ネギの ネギハモグリバエ、 シロイチモジヨトウ

効果の高い9剤を選定

発生状況を確認

IRACコードが異なる殺虫
剤をローテーション散布
化学農薬の散布回数を低減
(慣行14回➡9回)



トマトの タバココナジラミ

殺虫効果の 高い薬剤



黄色粘着フィルム
(物理的防除方法)

化学農薬の散布回数を低減
(慣行11回➡8回)

期待される波及効果

- 化学農薬の使用回数を減じ、生産者の防除コスト、労力を軽減できます。
- みどりの食料システム法に基づく京都府みどりの食料システム基本計画に示された化学農薬使用低減の取組みの一助となります。